

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
常盤	生活拠点の形成	生活サービス施設の誘導	1,000㎡以上の商業施設が徒歩圏内に存在しない状況である地域の課題を解決するため、市街化調整区域における地区計画制度を活用し、地域に不足している商業施設に併せて、地域ニーズを踏まえた生活サービス施設を誘導し、生活利便性の向上を図る。	○ （都市地域戦略課）	○ 【施設整備】	○ 【施設の利活用、地域ニーズの集約】		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年9月 民間事業者より進出意向表明 令和3年6月 地区計画策定 令和3年10月 建築条例制定 令和4年10月 民間事業者 建築許可 	平成31年4月に改正した市街化調整区域における地区計画運用基準に基づいて、生活拠点の形成に向けた取り組みを進めました。商業施設については令和5年夏頃のオープンを目指して工事が進められています。	<ul style="list-style-type: none"> 集落から商業施設へアクセスするための道路整備工事 		（都市地域戦略課）
		まちづくりセンターの利活用	常盤まちづくりセンターを地域住民の憩いの場や生活拠点の一つとしての利用を促進するため、コミュニティビジネスの推進を図る。併せて、農業振興の取り組みを進める。	○ （まちづくり協働課） （農林水産課）		○ 【施設の利活用、コミュニティビジネスの実施】	<ul style="list-style-type: none"> 【まちづくり協働課】 令和4年度 ⇒コミュニティカフェを継続実施 ⇒農業振興活性化プロジェクト(おにぎりプロジェクト)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 【まちづくり協働課】 コミュニティビジネスの推進のため、おにぎりプロジェクトのメンバーには地域支援員にも参加いただき、今後も継続的な支援を行ってまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> 【まちづくり協働課】 コミュニティカフェの継続実施 【農林水産課】 農業振興活性化プロジェクト(おにぎりプロジェクト)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 【まちづくり協働課】 コミュニティカフェの継続実施 【農林水産課】 農業振興活性化プロジェクト(おにぎりプロジェクト)の推進 	まちづくり協働課 農林水産課	
		常盤団地のリノベーション	小学校やこども園が近くにある立地を活かし、子育て世帯が住みやすい地域にするため、子育て支援型団地にリノベーションする。	○ （住宅課）		○ 【地域ニーズの集約】	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年7月～令和4年3月 A棟工事 令和4年11月～ B棟工事 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した常盤団地(A・B・C棟)について集中的な長寿命化・リニューアル工事を行い、若者からお年寄りまでが、安心して暮らせる住宅へと改修しています。 令和3年度にA棟工事が完了し、今年度はB棟工事に着手しました。来年度にはC棟工事に着手する予定です。 	<ul style="list-style-type: none"> B棟工事竣工(～令和5年6月) C棟工事着手 	<ul style="list-style-type: none"> C棟工事竣工 外構工事着手 	住宅課	
		常盤幼稚園の認定こども園化	子育て世代が安心して子育てができる環境を整えるため、常盤幼稚園の認定こども園化を進める。	○ （幼児施設課）			<ul style="list-style-type: none"> 令和元年11月～令和2年3月 保育室増築工事 令和2年4月 常盤こども園開園 令和3年8月～令和4年2月 既存棟改修工事 	当初予定していたとおり、保育室の増築工事を実施のうえ、常盤こども園を開園するとともに、老朽化した既存棟の改修を行うことができました。			幼児施設課	
		常盤学区空き家ゼロ対策	地元ニーズを踏まえた、地域の空き家等の利活用(常盤モデルの構築)の促進により空き家ゼロ対策を推進する。	○ （建築政策課）		○ 【空き家の把握、情報共有】	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月 草津市空き家等対策計画策定(以降、現在まで計画に基づく空き家等対策を推進) 令和4年6月～令和5年2月 戸建空き家実態調査 	草津市空き家等対策計画に基づき、空き家等の発生抑制・適切な管理の促進に取り組まれました。また、令和6年3月での同計画の改定に向けた検討を行うため、市内全域で戸建空き家実態調査を実施し、戸建空き家の発生状況等を把握することができました。	<ul style="list-style-type: none"> 空き家等対策の推進 草津市空き家等対策計画の改定を含めた草津市住生活基本計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家等対策の推進 	建築政策課	
	交通環境の充実	生活交通の基盤整備および利便性向上	公共交通を利用しやすくするため、バス停留所に駐輪場や休憩設備などの環境整備を進める。常盤学区内の移動やまちなかへの移動などの交通ネットワークを構築し、利便性の向上のため生活拠点に公共交通のターミナル機能(交通拠点)の整備を進める。	○ （都市地域戦略課）	○ 【交通ネットワークの充実】		<ul style="list-style-type: none"> 【交通政策課】 令和4年3月 動態調査 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 生活拠点(商業施設)の形成と合わせて、地域やバス事業者と連携し、サイクル&バスライドが可能な停留所等(交通拠点)の検討を行うとともに、バス路線網の再編等に向けて検討を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 生活拠点(商業施設)の形成と合わせて、バス路線網の再編等に向けて調整を行う。 【交通政策課】 草津市地域公共交通計画策定 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 【交通政策課】 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組 	都市地域戦略課 交通政策課	
		歩行者・自転車の安全安心事業(ユニバーサルデザインの推進)	常盤学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、常盤学区の基幹道路を歩行者や自転車等が安心して通行できるよう整備を進める。			○	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度～ ⇒葉山川橋梁における歩道確保にかかる県要望 	<ul style="list-style-type: none"> 北大萱町地先葉山川橋梁については、近隣の集落や生活拠点へのアクセスを支える重要な道路ですが、歩道が整備されていないため、地域における拠点形成にあたっての支障となっており、継続して県への要望を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉山川橋梁における歩道確保にかかる県要望 	<ul style="list-style-type: none"> 葉山川橋梁における歩道確保にかかる県要望 	（都市地域戦略課）	
		<観光> 烏丸半島の利活用	烏丸半島のポテンシャルを最大限に引き出し、常盤学区の活性化を図るため、烏丸半島の民間未利用地の活用を図る。琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森、その他烏丸半島内の施設と連携して烏丸半島全体の活性化を図る。		○ 【未利用地の活用】	○	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年10月～令和2年3月 烏丸半島中央部複合型観光集客施設事業実施事業者の公募を実施 ⇒優先交渉権者、次点交渉権者無し 	草津市土地開発公社において、国が主催するサウンディングへの参加やセールスプロモーションの実施を通して、民間発想による土地利用の方法等に関する情報収集をいただいております。機会を逸することなく、再公募ができるよう、日々取り組まれています。	<ul style="list-style-type: none"> 【企画調整課】 次期公募に向けた取組の実施 【都市地域戦略課】 烏丸半島の船着き場活用について国・県要望書の提出 		（企画調整課） （都市地域戦略課）	
	地域資源を活かした産業の支援	<観光> 歴史を活かしたまちづくり	常盤学区に存在する史跡や文化遺産を活用し、交流人口の増加による地域活性化を図るため、芦浦観音寺周辺の修景整備や歴史伝説館の整備、サイン整備を進めるとともに、景観重点地区指定に向けた取り組みを推進する。	○ （都市地域戦略課） （歴史文化財課） （商工観光労政課）		○ 【ガイド等】	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史文化財課】 令和4年度 ⇒史跡芦浦観音寺跡整備 ⇒歴史資料館調査業務 【商工観光労政課】 令和3年11月 ボランティアガイドによる「芦浦観音寺一般公開」ガイド実施 令和4年11月 ボランティアガイドによる「芦浦観音寺一般公開」ガイド実施 	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史文化財課】 国費の配分状況が厳しい中、史跡芦浦観音寺跡の整備を進めました。 【商工観光労政課】 コロナ禍の令和2年度以降、周遊バスについては中止が続いています。 ボランティアガイドによる芦浦観音寺一般公開についても通常であれば各年5月、11月の2回開催していますが、コロナ禍のため一部中止もございます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史文化財課】 史跡芦浦観音寺跡実施設計(伐採・倉) 史跡芦浦観音寺跡境内北西部造成工事 歴史資料館整備基本構想の作成 【商工観光労政課】 地域の観光資源を活用した交流人口増加に向けた取組(歴史的資産を活用した着地型観光、歴史的資産や観光スポットを巡回するバスの運行、地域の観光資源の掘り起こし・磨き上げ等) 	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史文化財課】 史跡芦浦観音寺跡土塁境内樹木の伐採等 歴史資料館整備基本計画の作成 【商工観光労政課】 地域の観光資源を活用した交流人口増加に向けた取組(歴史的資産を活用した着地型観光、歴史的資産や観光スポットを巡回するバスの運行、地域の観光資源の掘り起こし・磨き上げ等) 	都市地域戦略課 歴史文化財課 商工観光労政課	

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
常盤	地域資源を活かした産業の支援	<農水産業> 農業および水産業の振興	農業関連施設の整備や農産物の高付加価値化の推進、農業ファンドの活用による農業振興を図る。また、在来魚をはじめとする水産資源の養殖による水産業の振興を図る。	○ （農林水産課）		○ 【農産物の栽培や水産資源の養殖】		<p>■令和2年度～令和4年度 ⇒湖辺地区用水管等更新事業実施委員会 ⇒高収益作物(主にタマネギ)の作付けの推進</p> <p>■令和3年度 ⇒道の駅草津リノベーション構想策定</p> <p>■令和4年度 ⇒農業振興拠点施設である道の駅草津の改修等に向けた整備周辺施設や農家との連携・調整</p>	<p>農業関連施設の整備については、道の駅草津リノベーション構想に基づき、周辺施設や農家との連携による地域全体の価値向上に取り組み、さらなる農業振興を図りました。</p> <p>農業の高付加価値化の推進については、草津用水土地改良区を事務局として、引き続き事業実施委員会による意見交換会を実施し、老朽化した土地改良施設の更新や暗渠排水・大区画化について検討し、高付加価値化を進めるための基盤整備を図りました。また引き続き、高収益作物(タマネギ)の作付けを推進します。農業ファンドの活用については、常盤学区での農林漁業成長産業化ファンド(官民ファンド)の活用実績はありませんが、引き続き、関係機関と連携しながら経営支援に努めました。</p> <p>琵琶湖での養殖事業については、滋賀県の「琵琶湖海区にかかる漁場計画樹立方針」において、漁場の環境の悪化や伝染病の蔓延を防止する観点から、漁場の新設は認められないと確認しました。</p>	<p>■農業振興拠点施設である道の駅草津の改修等に向けた整備周辺施設や農家との連携・調整</p> <p>■湖辺地区用水管等更新事業の実施に向けた地元との調整</p> <p>■高収益作物(主にタマネギ)の作付けの推進</p>	<p>■農業振興拠点施設である道の駅草津の改修等に向けた整備周辺施設や農家との連携・調整</p> <p>■湖辺地区用水管等更新事業の実施に向けた地元との調整</p> <p>■高収益作物(主にタマネギ)の作付けの推進</p>	農林水産課
		<農水産業> 道の駅草津のリノベーション	集客力の向上と地域活性化を目指した拠点づくりのため、滋賀県やからすま農産などと連携し、民間の力を活用した道の駅草津のリノベーションを行う。	○ （農林水産課）	○ 【農産物販売や体験型農業の企画・運営】		○	<p>■令和2年度～令和4年度 ⇒道の駅草津リノベーションにかかる駐車場の拡大および県道とのアクセス強化(県要望)</p> <p>■令和3年度 ⇒道の駅草津リノベーション構想策定懇話会 ⇒リノベーション構想の策定</p>	<p>道の駅草津リノベーション構想に基づき、施設の機能強化や魅力の向上、および周辺の一体的な活性化や誘客促進を通して農業振興を図るとともに、地方創生の拠点形成を目指しています。</p>	<p>■入込客数の回復と経営の安定化に向けた取組</p> <p>①駐車場の拡大に向けた県との調整</p> <p>②グリーンプラザからすまの改修に向けた調査・調整</p> <p>③安定した収益の実現に向けたソフト事業に関する運営者との調整</p>	<p>■入込客数の回復と経営の安定化に向けた取組</p> <p>①駐車場の拡大に向けた県との調整</p> <p>②グリーンプラザからすまの改修に向けた調査・調整</p> <p>③安定した収益の実現に向けたソフト事業に関する運営者との調整</p>	農林水産課
		<農水産業> 志那漁港のリノベーション	漁港での漁業体験等の着地型観光など地域資源を活かした魅力的な空間づくりを行い、交流人口の増加を目指し地域活性化を図るため、Park-PFI制度を活用し志那漁港や周辺の湖岸緑地および平湖・柳平湖等の活用を図る。	○ （農林水産課） （商工観光労政課）	○ 【Park-PFIの企画・実施】	○ 【着地型観光の企画・運営】	○	<p>【農林水産課】 ■令和2年度～令和4年度 ⇒ Park-PFI制度を活用した琵琶湖湖岸緑地の利活用(県要望)</p>	<p>【農林水産課】 志那漁港のリノベーションについては、滋賀県が策定された「みどりのみずべの将来ビジョン」では、志那漁港周辺の湖岸緑地は、民間活力等の整備による活用エリアに位置付けされています。市として湖岸緑地の民間活力の導入に向けて滋賀県に要望を行っており、その動きに合わせて、漁業体験等の着地型観光など、地域資源を活かした漁港の利活用について、志那漁業協同組合と連携を図りながら、進めています。</p>	<p>【農林水産課】 ■漁港のにぎわいの創出に向けた漁業者をはじめとする関係者との調整・連携</p>	<p>【農林水産課】 ■漁港のにぎわいの創出に向けた漁業者をはじめとする関係者との調整・連携</p>	農林水産課 （商工観光労政課）

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
山田	生活拠点の形成	生活サービス施設の誘導	山田学区の東側のエリアには商業施設が立地しているが、その他のエリアについては、商業施設が全く立地していない状況である。この課題を解決するため、市街化調整区域における地区計画制度を活用し、地域の利用に合致した生活を支える施設等を誘導し、生活利便性の向上を図る。	○ （都市地域戦略課）	○ 【施設整備】	○ 【施設の利活用、地域ニーズの集約】		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年3月 地区計画策定 令和4年6月 建築条例改正 令和4年11月 民間事業者から開発にかかる事前協議書を受理 	地区計画の作成や建築条例の改正を令和4年6月までに完了することができました。現在、事前協議書に基づき関係課との協議を進めているところであり、令和5年秋頃の開発許可を目指しております。	<ul style="list-style-type: none"> 文化財本掘 宅地造成工事 業務用地サウンディング 	<ul style="list-style-type: none"> 宅地分譲 業務用地リーシング 	都市地域戦略課
		まちづくりセンターの建替え	老朽化している山田学区まちづくりセンターの建替えが予定されていることから、人口減少や高齢化社会を見据えた地域住民の生活拠点となり、かつ、憩える場所としての利活用を考慮した整備を図る。	○ （まちづくり協働課）				<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 ⇒ 山田まちづくりセンターの建替えに向けた関係課との協議（地区計画の進捗も勘案） 	地域住民の生活拠点となるとともに、憩いの場所としての利活用が図られるよう、地域の声を反映したセンター整備となるよう取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> 山田まちづくりセンターの建替えに向けた関係課との協議（地区計画の進捗も勘案） 	<ul style="list-style-type: none"> 地区計画区域の開発状況に合わせた山田まちづくりセンター整備事業の実施 新まちづくりセンター基本設計 新まちづくりセンター実施設計 	まちづくり協働課
		山田学区の持続可能なまちづくりおよび生活拠点の付加機能等の検討	山田学区が今後の人口減少、少子・高齢化社会においても持続可能なまちであり続けられるよう、学区の生活拠点として必要となる機能や消防団詰り所や交番等の集約、防災防犯機能の付加を検討する。また、大学やJA草津市と連携し、地元農産物の産地消の仕組み作り、あるいはコミュニティビジネス等の地域が主体となる取組みを実施し、持続可能な活動となるよう検討する。	○ （都市地域戦略課） ○ （危機管理課） ○ （まちづくり協働課） ○ （農林水産課）	○ 【大学・JAとの検討】	○ 【地域ニーズの集約】		<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 令和3年度 ⇒ 草津市地域再生自走化支援業務 令和4年度 ⇒ 草津市地域再生自走化支援業務 【危機管理課】 令和3年10月 山田交番更新と消防団第4分団詰り所の取り扱いについての地域との協議 令和3年11月 山田交番更新と消防団第4分団詰り所の取り扱いについての地域との協議 令和4年1月 山田交番移設についての県警本部要望活動 令和4年8月 山田交番移設についての国・県要望書の提出 【農林水産課】 令和2年度～令和4年度 ⇒ ベジクサンフレット配布 令和4年度 ⇒ やさいバス株式会社が実施する実証実験・本格稼働の準備支援 令和2年6月 渋川小学校でのベジクサに関する講義 令和2年7月 UDCBK社会実験準備事業での聞き取り調査 令和3年3月 草津ブランド市の開催 令和3年11月 草津ブランド市の開催 令和4年5月 立命館大学シチズンシップ・スタディーズへの連携 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 まちづくりプランの推進にあたり、専門的な観点から先行事例の紹介やアドバイス等、山田学区の自走化に向けて伴走的な支援を行いました。 上記の支援に加えて他地域や関係団体とのネットワークの形成に向けて交流機会の創出に向けて取り組みました。 【危機管理課】 分団詰り所移設については、地域との協議の結果、第4分団の意向や現詰所敷地内にある防火水槽移設が困難であるなどの課題があり、見送ることとしました。 山田交番更新については、地域の意向を受け、滋賀県警本部に、地元県議、市議や地域住民と協力して、要望活動を行ったことや、滋賀県に対し、地元希望地への移設実現についての国・県要望書を提出いたしました。 【農林水産課】 市内生産者から飲食店等への農作物の流通システムの構築を目指して、やさいバス株式会社が実証実験を行い、本格稼働に向けて準備をされており、市として支援を行っていました。 また、立命館大学やJAと連携し、草津市産農産物である「ベジクサ」の認知度を高めるPRを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 山田学区の自走化に向けた伴走的な支援 【危機管理課】 山田交番移設についての国・県要望書の提出 【まちづくり協働課】 コミュニティビジネスに向けた取組みの継続実施 【農林水産課】 ベジクサンフレット配布 	<ul style="list-style-type: none"> 【まちづくり協働課】 コミュニティビジネスに向けた取組みの継続実施 【農林水産課】 ベジクサンフレット配布 	都市地域戦略課 危機管理課 まちづくり協働課 農林水産課
	交通環境の充実	生活交通の基盤整備および利便性向上	バス停留所に駐輪場や休憩場所を設けることや、生活拠点への公共交通のターミナル機能（交通拠点）の環境整備を進める。また、山田学区内の移動や「まちなか」への移動において、公共交通ネットワークを構築することで、利便性の向上を図る。	○ （都市地域戦略課） ○ （交通政策課）	○ 【公共交通ネットワークの充実、ターミナル機能の整備】			<ul style="list-style-type: none"> 【交通政策課】 令和4年2月 動態調査 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 生活拠点（商業施設）の形成と合わせて、地域やバス事業者と連携し、サイクル&バスライドが可能な停留所等（交通拠点）の検討を行うとともに、バス路線網の再編等に向けて検討を行いました。 【交通政策課】 山田学区を運行するまめバス「山田線」の利用実態を把握するため、5日間の動態調査を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 生活拠点（商業施設）の形成と合わせて、関係課と連携したバス路線網の再編等に向けた協議 【交通政策課】 草津市地域公共交通計画策定 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 【都市地域戦略課】 生活拠点（商業施設）の形成と合わせて、関係課と連携したバス路線網の再編等に向けた協議 【交通政策課】 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組 	都市地域戦略課 交通政策課
		歩行者・自転車の安全安心事業（ユニバーサルデザインの推進）	山田学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、山田学区の基幹道路を歩行者や自転車等が安心して通行できるよう整備を進める。				○	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度～ ⇒ 草津川跡地および南山田町地先における歩道確保にかかる県要望 	草津川跡地については、平成29年度の地元協議において、2段階整備での計画案に滋賀県と地元で合意形成が図られたところであり、第1段階の工事に続き、第2段階の課題解消に向けて地元と協議を行っていただく必要があります。南山田町地先については、急激に幅員が減少している区間であり、非常に危険な状況が続いているため、継続して県への要望を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 草津川跡地および南山田町地先における歩道確保にかかる県要望 	<ul style="list-style-type: none"> 草津川跡地および南山田町地先における歩道確保にかかる県要望 	（都市地域戦略課）

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
山田	地域資源を活かした産業の支援	農作物の高付加価値化等による農業の振興	ハウスを活用した軟弱野菜や草津メロンなどの高付加価値化の推進、ブランド力の維持・向上、既存施設との連携を図るとともに、循環型農業のシステム構築を目指す。	○ （農林水産課）		○ 【農産物の栽培】		<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月、11月 ブランド市 令和4年5月 愛彩菜ワークショップ 令和4年10月 BiwaArtミュージアム 	草津ブランドに認証されている愛彩菜、琵琶湖からすま運根、琵琶湖元気アスパラの認知度高めるPRをブランド市などで行いました。また、野菜残さを活用した循環型農業のシステム構築に資する技術等の情報収集を行いました。	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの草津ブランド認証農産物のPR 各種イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの草津ブランド認証農産物のPR 各種イベントの実施 	農林水産課
		北山田漁港のリノベーション	漁港での漁業体験等の着地型観光など地域資源を活かした魅力的な空間づくりを行い、交流人口の増加を目指し地域活性化を図るため、Park-PFI制度を活用し北山田漁港や周辺の湖岸緑地の活用を図る。	○ （農林水産課） （商工観光労政課）	○ 【Park-PFIの企画・実施】	○ 【着地型観光の企画・運営】	○	<ul style="list-style-type: none"> 【農林水産課】 令和2年度～令和4年度 ⇒Park-PFI制度を活用した琵琶湖湖岸緑地の利活用(県要望) 	【農林水産課】 北山田漁港のリノベーションについては、滋賀県が策定された「みどりとみずべの将来ビジョン」では、北山田漁港周辺の湖岸緑地は、民間活力等の整備による活用エリアに位置付けされています。市として湖岸緑地の民間活力の導入に向けて滋賀県に要望を行っており、その動きに合わせて、漁業体験等の着地型観光など、地域資源を活かした漁港の利活用について、山田漁業協同組合と連携を図りながら、進めてまいります。	【農林水産課】 漁港のにぎわいの創出に向けた漁業者をはじめとする関係者との調整・連携	【農林水産課】 漁港のにぎわいの創出に向けた漁業者をはじめとする関係者との調整・連携	農林水産課 （商工観光労政課）
		草津川跡地公園の利活用	令和元年11月にピワイチがナショナルサイクルートに指定され、今後サイクリング人気が高まることが予想されていることや、区間1の自転車歩行者道が整備されることから、これまでの草津川跡地公園の利用者に加え、サイクリングを楽しむ人達に区間2「ai彩ひろば」を訪れていただくような仕組み作りを行うなど、更なる地域の賑わいの創出を図る。	○ （草津川跡地整備課） （商工観光労政課）	○ 【企画・運営】		○	<ul style="list-style-type: none"> 【草津川跡地整備課】 <区間1>（県事業） 令和2年度～令和3年度 ⇒湖岸道路アンダー整備 令和4年4月 湖岸道路アンダー一部供用開始 <区間2> 令和2年4月～3月 民間事業者主催等のイベントを3件実施 令和3年4月～3月 指定管理者主催等のイベントを約50件実施 令和4年4月～11月 指定管理者主催等のイベントを約20件実施 【商工観光労政課】 令和3年11月 びわこ・くさつグルメライド実施 令和4年11月 びわこ・くさつグルメライド実施 	【草津川跡地整備課】 コロナ禍でしたが、指定管理者だけでなく市民活動団体や民間事業者によるイベントが実施され、ai彩ひろば(区間2)のにぎわい創出につながり、地域活性化の推進にもつながりました。	【草津川跡地整備課】 多様な主体によるイベント等の実施	【草津川跡地整備課】 多様な主体によるイベント等の実施	草津川跡地整備課 商工観光労政課
笠縫	生活拠点の形成	生活サービス施設の誘導	笠縫学区における下笠町などの市街化調整区域では1,000㎡以上の商業施設が徒歩圏内に存在しない状況である。この課題を解決するために土地利用について都市地域戦略制度を活用し、買い物機能や医療・福祉機能(コミュニティナース等)あるいは子育て世代の相談・交流等の地域のニーズを踏まえた多機能型の生活サービス施設を誘導することにより、生活利便性の向上を図れるよう、検討を重ねながら進める。	○ （都市地域戦略課）	○ 【施設整備】	○ 【施設の利活用、地域ニーズの集約】		<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度～ ⇒地元からの提案に基づく笠縫学区内における地区計画(生活拠点形成型)策定にかかる検討 	面積や接道条件等の開発にかかる要件を満たしつつ、地元ニーズと民間ニーズのマッチングを図ることが難しく、地区計画策定に向けた具体的な議論は進んでおりませんが、地元からの提案・相談に随時対応しております。	<ul style="list-style-type: none"> 地区計画(生活拠点形成型)策定可能性に関する調査・研究 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究を受けての地区計画(生活拠点形成型)策定可能性に関する検討 	都市地域戦略課
		笠縫幼稚園の認定こども園化	子育て世代が安心して子育てができる環境を整えるため、笠縫幼稚園の認定こども園化を進める。	○ （幼児施設課）				<ul style="list-style-type: none"> 令和2年6月～令和3年3月 こども園整備工事 令和3年4月 笠縫こども園開園 	当初予定していたとおり、笠縫幼稚園のこども園化に向けた整備工事を行い、笠縫こども園を開園することができました。			幼児施設課
		笠縫学区空き家対策	地元ニーズ(創作活動、交流スペース等)を踏まえた、地域の空き家等の把握や利活用を促進する。	○ （建築政策課）			○ 【空き家の把握、情報共有】		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月 草津市空き家等対策計画策定(以降、現在まで計画に基づく空き家等対策を推進) 令和4年6月～令和5年2月 戸建空き家実態調査 	草津市空き家等対策計画に基づき、空き家等の発生抑制・適切な管理の促進に取り組みました。また、令和6年3月での同計画の改定に向けた検討を行うため、市内全域で戸建空き家実態調査を実施し、戸建空き家の発生状況等を把握することができました。	<ul style="list-style-type: none"> 空き家等対策の推進 草津市空き家等対策計画の改定を含めた草津市住生活基本計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家等対策の推進

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
	交通環境の充実	生活交通の基盤整備および利便性向上	既存の公共交通機関（以下「既存バス路線」）が充実していることから、これを維持するため、バス停留所に駐輪場や待合施設を設けるなどの環境整備を進め、利用を促進し、既存バス路線を維持する。また、笠縫学区内の福祉施設等への移動や「まちなか（駅や商業施設等）」への移動においては、高齢者を中心に利用しやすい公共交通ネットワークの構築について、まめバス等の方策を検討しながら進める。	○ （都市地域戦略課） （交通政策課）	○ 【交通ネットワークの充実】	○ 【施設の利活用、地域ニーズの集約】		【交通政策課】 令和4年11月 まめバス「草津駅下笠縫」本格運行開始	【交通政策課】 まめバス「草津駅下笠縫」については、令和3年11月1日から1年間実証運行を行っていましたが、1年間の目標利用人数を達成したことから、令和4年11月1日より本格運行へ移行しました。	【都市地域戦略課】 関係課と連携したバス路線網の再編等に向けた協議 【交通政策課】 草津市地域公共交通計画策定 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組	【交通政策課】 草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組	都市地域戦略課 交通政策課
		歩行者・自転車の安全安心事業（ユニバーサルデザインの推進）	笠縫学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、笠縫学区の基幹道路を歩行者や自転車等が安心して通行できるよう整備を進める。				○ 令和2年度～ ⇒草津川跡地における歩道確保にかかる県要望	草津川跡地については、平成29年度の地元協議において、2段階整備での計画案に滋賀県と地元で合意形成が図られたところであり、第1段階の工事に続き、第2段階の課題解消に向けて地元と協議を行っていただく必要があります。	草津川跡地における歩道確保にかかる県要望	草津川跡地における歩道確保にかかる県要望	（都市地域戦略課）	
		各種地域資源を連携させるためのアクセシビリティ向上	笠縫学区には、様々な地域資源（老杉神社、草津あおばな館等）が点在していることから、これらの連携を進めるため、アクセシビリティの向上を図るよう検討を進める。	○ （道路課）		○ 【地域ニーズの集約、地権者協議】			地域資源の周辺は、道路幅員が比較的に広いなど、一定のアクセシビリティは確保されているものと考えます。今後、地元ニーズがある場合には優先度などを協議し、進めてまいります。	今後、地元ニーズがある場合は優先度などを協議し、整備を検討	今後、地元ニーズがある場合は優先度などを協議し、整備を検討	道路課
笠縫	地域資源を活かした産業の支援	田園地域の活性化の検討	笠縫学区は田園風景が広がりが稲作が盛んな地域であるが、地域の担い手の高齢化や後継者不足等が懸念される。このことから、地域が農業に関わりやすい仕組みづくり（市民農園の利用、既存施設との連携、農地の保全や環境保全の取組）を踏まえた優良農地を次世代へ繋げる新たな手法の検討等を進め、地域の活性化を図る。	○ （農林水産課） （農業委員会）	○ 【企画】	○ 【耕作放棄地の把握、農作物の栽培、新たな手法の検討】	【農林水産課】 令和3年度～令和4年度 ⇒市内の小学校14校において、農作物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一環した農業体験学習を実施 ⇒まると既存組織の継続的な支援と広域組織の拡大に向けた取組を実施 令和4年度 ⇒市内の公立認可教育・保育施設13園において、農作物を「育て」、「収穫し」、「食べる」、「土壌再生」という一環した農業体験学習を実施 令和4年9月 第2回地球冷やしたいセミナー×家庭菜園・ベランダ菜園事業「袋栽培で伝統野菜に挑戦」 令和4年11月 第3回地球冷やしたいセミナー×家庭菜園・ベランダ菜園事業「寒縮ほうれん草の袋栽培」 【農業委員会事務局】 農地バトロールによる遊休農地（耕作放棄地）の早期発見および指導	【農林水産課】 地域が農業に関わりやすい仕組みづくりについて、野菜の袋栽培の実演や講習会で市民に農業を身近に感じていただく機会を創出しました。また「たんぼのこ体験事業」や「はたけのこ体験事業」のような食農教育において、次世代を担う子どもたちに農業に関わる機会を設けることができました。 農地の保全については、草津用土土地改良区を事務局とした広域組織を平成31年度に設立し、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の広域化を推進しており、引き続き対象となる地元に対して説明・調整を進めてまいります。 【農業委員会事務局】 農業委員、農地利用最適化推進委員が協力し、年間通じて遊休農地（耕作放棄地）のバトロール、指導を行った。 また、活動強化月間を設け、遊休農地（耕作放棄地）の早期発見、改善に取り組んだ。	【農林水産課】 家庭菜園・ベランダ菜園事業 たんぼのこ体験事業 はたけのこ体験事業 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策事業の既存組織の継続的な支援 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策事業の広域組織の拡大に向けた取組	【農林水産課】 家庭菜園・ベランダ菜園事業 たんぼのこ体験事業 はたけのこ体験事業 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策事業の既存組織の継続的な支援 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策事業の広域組織の拡大に向けた取組	農林水産課 農業委員会	
		農業関連施設の活用	農業関連施設（あおばな館等）が存在し、地域の農産物の直売や体験農業などにより、地域の活性化に寄与しているが、生産者や地域あるいは大学と連携することにより、更なる賑わいの創出と地産地消の取り組みを進める。	○ （農林水産課）	○ 【企画】	○ 【農作物の栽培、企画への参画】	令和3年度～令和4年度 ⇒ベジクサパンフレット配布 令和3年3月 草津ブランド市の開催 令和3年11月 草津ブランド市の開催 令和4年5月 立命館大学シチズンシップ・スタディーズへの連携	立命館大学やJAと連携し、草津市産農産物である「ベジクサ」の認知度を高めるPRを行いました。引き続き関係者との連携を進め、一層の認知度の向上に努めます。	ベジクサパンフレット配布	ベジクサパンフレット配布	農林水産課	
		歴史を活かしたまちづくり	笠縫学区に存在する老杉神社等をはじめとする歴史・文化的な資源の魅力（文化財等の景観やストーリーなど）を活用し、地域での交流を促進しつつ、交流人口の増加を図る。加えて、田園風景等の景観を活かした取り組みを推進することにより、地域活性化を推進する。	○ （都市計画課） （歴史文化財課）		○ 【地域ニーズの集約、企画への参画】	【都市計画課】 平成31年1月 かわら版第1号発行 平成31年3月 第8回下笠縫町景観まちづくり検討協議会開催 令和元年6月 かわら版第2号発行 令和元年6月 第9回下笠縫町景観まちづくり検討協議会開催 令和2年1月 第10回下笠縫町景観まちづくり検討協議会開催およびかわら版第3号発行 【歴史文化財課】 サンヤレ踊り保存会が実施する保存継承活動に対する補助金交付 令和5年1月 令和4年度草津市サンヤレ踊りユネスコ無形文化遺産登録記念啓発事業補助金交付	【都市計画課】 地元からの提案に基づき、近隣景観形成協定の策定に向けた協議を行います。 【歴史文化財課】 例年実施している補助金の交付に加え、ユネスコ無形文化遺産への登録を受け、保存会7団体へ新たに補助金を交付しました。地域の民俗芸能の普及啓発を支援することで、歴史資産の保存継承への機運上昇や地域の郷土意識の醸成、活性化に寄与しました。	【都市計画課】 地元からの提案に基づいた、近隣景観形成協定の策定に向けた協議 【歴史文化財課】 「草津のサンヤレ踊り」保存会に対し、市内イベントへの出演を依頼 ・草津宿場まつり ・アートフェスタ草津 ・体験講座 地域の観光資源を活用した交流人口増加に向けた取組（歴史的資産を活用した着地型観光、歴史的資産や観光スポットを巡回するバスの運行：観光物産協会主催）		都市計画課 歴史文化財課	

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
笠縫	地域資源を活かした産業の支援	地域資源の再発見・認識を通じ、地域の活性化やコミュニティの創出	様々な地域資源を有しているが、認知がなされていないことも多いことから、地域住民が点在している地域資源について、再発見・認識するとともに、地域が主体となる取組が実施できる仕組みを検討するなど、地域資源を活用した地域の活性化やコミュニティの創出等を推進する。		○ 【企画】	○ 【地域資源の再発見・認識、主体となる取組の検討】			地元からの提案に基づき、地域資源の活用について協議を行います。	■地域資源の利活用に関する協議および補助	■地域資源の利活用に関する協議および補助	（都市地域戦略課）
		草津川跡地公園の利活用	2017年に草津川跡地公園ai彩ひろばがオープンし、多くの方が訪れ賑わいを見せていることから、ai彩ひろばを活用し笠縫学区（下笠エリア）の地域活性化を推進する。	○ （草津川跡地整備課） （商工観光労政課）	○ 【企画・運営】	○ 【地域ニーズの集約、企画への参画】		【草津川跡地整備課】 ■令和2年4月～3月 民間事業者主催等のイベントを3件実施 ■令和3年4月～3月 指定管理者主催等のイベントを約50件実施 ■令和4年4月～11月 指定管理者主催等のイベントを約20件実施	【草津川跡地整備課】 コロナ禍であったが、指定管理者だけでなく市民活動団体や民間事業者によるイベントが実施され、ai彩ひろば（区間2）にぎわい創出につながり、地域活性化の推進にもつながりました。	【草津川跡地整備課】 ■多様な主体によるイベント等の実施 【商工観光労政課】 ■多様な主体によるイベント等の実施	【草津川跡地整備課】 ■多様な主体によるイベント等の実施 【商工観光労政課】 ■多様な主体によるイベント等の実施	草津川跡地整備課 商工観光労政課
志津	生活拠点の形成	まちづくりセンター建替え	まちづくりセンター改築および進入路拡幅を行い、今後、地域住民の利便性向上のため、まちづくりセンターを中心とした生活拠点の形成が図れるよう調整を行う。	○ （まちづくり協働課）	○ 【進入路拡幅】	○ 【施設活用方法の検討】		■令和4年度 ⇒志津まちづくりセンター改築 ⇒志津まちづくりセンター進入路拡幅	志津まちづくりセンター改築および進入路拡幅を行い、地域住民の利便性向上を図りました。今後はまちづくりセンターを中心とした生活拠点の形成を推進していきます。	■志津まちづくりセンターの拠点化に向けた活用方法の検討	■志津まちづくりセンターの拠点化に向けた活用方法の検討	まちづくり協働課
		まちづくりセンターの周辺利活用等の検討	地域住民の生活拠点の一つである、まちづくりセンターの利用を促進し地域コミュニティの維持を図るため、まちづくりセンター周辺の利活用について検討を行う。	○ （まちづくり協働課）		○ 【周辺環境利活用の検討】		■令和4年度 ⇒周辺環境の利活用の検討にかかる事業実施（まちづくり一括交付金を活用）	まちづくりセンターの利用を促進し、地域コミュニティの維持のため、まちづくりセンター周辺の利活用が進むよう、支援を行ってまいります。	■周辺環境の利活用に向けた検討および課題整理	■周辺環境の利活用に向けた検討および課題整理	まちづくり協働課
	交通環境の充実	補完公共交通の充実	バス交通空白地・不便地（特に山手エリア）における地域住民の移動手段を確保するため、デマンド型乗合タクシー「まめタク」の運行を実施するとともに、既存バス路線への乗り継ぎを考慮しながら、基幹的公共交通の利便性を高める。	○ （交通政策課）				■令和4年11月 ⇒まめタク既存路線の本格運行開始 ⇒まめタク草津駅接続線の実証運行開始	まめタクについては、令和2年11月30日から2年間実証運行を行っていましたが、本格運行移行への判断基準を達成したことから、令和4年11月30日より本格運行へ移行しました。	■バス交通不便地におけるデマンド型乗合タクシー「まめタク」の既存路線における運行 ■新規路線である草津駅接続線の本格運行移行に向けた検討	■バス交通不便地におけるデマンド型乗合タクシー「まめタク」の既存路線における運行 ■既存バス路線への乗り継ぎを考慮した基幹的公共交通の利便性向上	交通政策課
		生活交通の基盤整備および利便性向上	生活拠点に繋がる公共交通を利用しやすくするため、主要地方道大津能登川長浜線のバス停留所にサイクル&バスライド等を整備する。	○ （交通政策課）		○ 【サイクル&バスライド等整備適地の検討】				■主要地方道大津能登川長浜線のバス停留所におけるサイクル&バスライド等の整備に向けた検討	■主要地方道大津能登川長浜線のバス停留所におけるサイクル&バスライド等の整備に向けた検討	交通政策課
	地域資源を活かした産業の支援	馬場山寺基盤整備（圃場整備）	馬場町、山寺町における農業振興区域の農業を活性化するために、圃場整備を推進する。これにより、農業における生産性の向上や担い手の確保を図るとともに、農産物の高付加価値化を推進する。	○ （農林水産課）			○ 【将来の地域・農業の検討】	○ ■令和3年度～令和4年度 ⇒馬場・山寺地区基盤整備事業に対する支援について（国県要望） ■令和3年11月 県営事業新規採択申請書を滋賀県に提出 ■令和4年10月 事業施行申請書を滋賀県に提出 ■令和5年3月 土地改良区設立認可申請書を滋賀県に提出	当初令和3年度末に予定していた県営馬場・山寺地区土地改良事業施行申請書を令和4年10月末をもって滋賀県に提出することができました。令和5年3月に馬場山寺土地改良区の設立認可申請書を滋賀県に提出するとともに次年度以降の改良区設立に向けた取組を一層進めます。	■実施設計（県営） ■土地改良区設立 ■換地原案作成	■実施設計（県営） ■工事（県営：実施設計終了次第） ■換地原案作成	農林水産課
		ロクハ公園の利活用	志津学区内外および草津市外からも多くの方が訪れ、賑わいを見せていることから、ロクハ公園を利活用することで、志津学区の地域活性化を推進する。	○ （公園緑地課） （商工観光労政課）			○ 【利活用の検討】	【公園緑地課】 ■令和4年9月 ロクハ公園プールあり方検討に伴うロクハ公園プール劣化度調査	【公園緑地課】 施設の老朽化等に伴い、今後のロクハ公園プールのあり方を検討するため、劣化度調査を行いました。	【公園緑地課】 ■安全性の確保や運営・維持管理コストの縮減等に向けたロクハ公園プールの今後のあり方を検討（令和4年度の劣化度調査をふまえて）		公園緑地課
里山や豊かな自然の利活用		志津学区に残された里山や自然環境を活かした体験学習などを通じ、地域の活性化を図るとともに、地元企業や大学などと連携した取り組みを進める。		○ 【企業・大学との検討】	○ 【調査・検討・企画・運営】			■令和4年5月 志津里山自然学校プログラム①「森に小道をつくろう」実施 ■令和4年6月 志津里山自然学校プログラム②「ホテルと友だちになろう」実施 ■令和4年10月 志津里山自然学校プログラム③「みんなで伐採にチャレンジ！」実施 ■令和4年11月 志津里山自然学校プログラム④「学んで料理して楽しもう」実施 ■令和4年12月 志津里山自然学校プログラム⑤「みんなで薪作りチャレンジ！」実施 ■令和5年3月 志津里山自然学校プログラム⑥「マイツリーを植えてみよう」実施	環境基本計画の重点事業①「いきもの自然学校」について、既存の地域の取組を活用し、自然と人のふれあいや自然観察等の体験を中心とした環境学習プログラムを検討し、予定していた計6回の取組を、地元と連携して実施することができました。	■令和5年5月 志津里山自然学校プログラム①「森のエリアをつくろう」実施 ■令和5年6月 志津里山自然学校プログラム②「ホテルと友だちになろう」実施 ■令和5年10月 志津里山自然学校プログラム③「みんなで伐採にチャレンジ」実施 ■令和5年11月 志津里山自然学校プログラム④「学んで料理して楽しもう」実施 ■令和5年12月 志津里山自然学校プログラム⑤「みんなで薪作りチャレンジ」実施 ■令和6年3月 志津里山自然学校プログラム⑥「マイツリーを植えてみよう」実施	■志津里山自然学校プログラム	（環境政策課）

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
笠縫東	生活拠点の形成	まちづくりセンター建替え	老朽化している笠縫東まちづくりセンターの建替えが予定されていることから、人口減少や高齢化社会を見据えた地域のまちづくりの拠点として、また、気軽に憩える場所としての利活用を考慮した整備を図る。	○ (まちづくり協働課)		○ 【施設機能検討・活用】		■令和4年度 →次年度に実施する設計業務に向けた協議・調整	地域住民の生活拠点となるとともに、憩いの場所としての利活用が図られるよう、地域の声を反映したセンター整備となるよう取り組んでおります。	■新まちづくりセンター基本設計 ■新まちづくりセンター実施設計	■新まちづくりセンター新築工事	まちづくり協働課
		笠縫東学区の持続可能なまちづくりおよび生活拠点の付加機能等の検討	笠縫東学区が今後の人口減少、少子・高齢化社会においても持続可能なまちであり続けられるよう、学区の生活拠点として必要となる機能（グリーンマーケットの開催等）について検討する。また、地元農産物等の地産地消の仕組み作り、あるいはコミュニティビジネス等の地域が主体となる取組みが、持続可能となるよう検討する。	○ (都市地域戦略課) (まちづくり協働課) (農林水産課)		○ 【施設活用方法の検討・企画・運営】	【農林水産課】 ■令和4年度 →やさいバス株式会社が実施する実証実験・本格稼働の準備を支援	【都市地域戦略課】 地元からの提案に基づき、生活拠点の形成に合わせ、持続可能なまちづくりを目指すにあたって必要な機能について協議を行います。 【農林水産課】 市内生産者から飲食店等への農作物の流通システムの構築を目指している、やさいバス株式会社が実証実験を行い、本格稼働に向けて準備をされており、市として支援を行います。	【都市地域戦略課】 ■学区の生活拠点として必要となる機能についての協議 【まちづくり協働課】 ■グリーンマーケットの継続実施 【農林水産課】 ■草津市産の農産物の販路拡大および地産地消の推進に向けた生産者との安定的な出荷についての調整	【都市地域戦略課】 ■学区の生活拠点として必要となる機能についての協議 【まちづくり協働課】 ■グリーンマーケットの継続実施 【農林水産課】 ■草津市産の農産物の販路拡大および地産地消の推進に向けた生産者との安定的な出荷についての調整	都市地域戦略課 まちづくり協働課 農林水産課	
		生活サービス施設の誘導	笠縫東学区の北西エリアは市街化調整区域が広がっており、今後の人口減少・少子高齢化により、地域コミュニティの維持や生活機能の確保が困難となる可能性があることから、一定の社会生活を確保するため、地域が必要とする生活サービス施設の誘導を検討する。	○ (都市地域戦略課)	○ 【施設整備】	○ 【施設の利活用、地域ニーズの集約】	■令和4年度～ →地元からの提案に基づく笠縫東学区内における地区計画(生活拠点形成型)策定にかかる検討	面積や接道条件等の開発にかかる要件を満たしつつ、地元ニーズと民間ニーズのマッチングを図ることが難しく、地区計画策定に向けた具体的な議論は進んでおりませんが、地元からの提案・相談に随時対応しております。	■地区計画(生活拠点形成型)策定可能性に関する調査・研究	■調査・研究を受けての地区計画(生活拠点形成型)策定可能性に関する検討	都市地域戦略課	
	交通環境の充実	補完公共交通の充実	既存の公共交通機関(以下「既存バス路線」)がないことから、補完的公共交通としてまめバスが運行しているが、利用促進のため、地域版の路線図の作成等を検討する。また、今後地域が利用しやすい補完的公共交通の在り方として、まめバスやデマンドタクシー等について研究を重ねる。	○ (交通政策課)	○ 【交通ネットワークの充実】	○ 【ニーズ把握・集約】	■令和4年3月 動態調査	常盤学区を運行するまめバス「笠縫東常盤線」の利用実態を把握するため、5日間の動態調査を実施しました。	■草津市地域公共交通計画策定 ■草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組	■草津市地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワーク形成に向けた取組	交通政策課	
		通学路の安全確保および歩行者・自転車の安全安心事業(ユニバーサルデザインの推進)	笠縫東学区の住民が安全で安心して生活が送れるようにするため、笠縫東学区における通学路や狭隘な道路について、歩行者や自転車等が安心して通行できる環境整備について検討を進める。	○ (建築政策課) (学校教育課) (道路課)		○ 【ニーズ把握・集約】	【道路課】 ■過年度 →合同点検をふまえた必要な通学路対策を実施 【建築政策課】 ■過年度 市内全域を対象に、狭隘な道路に接する土地所有者からその土地を寄付していただける場合、関係機関との調整を図り、土地分筆や舗装等の道路拡幅整備を実施 【学校教育課】 ■令和4年3月～4月初旬 令和4年度通学路要望集約(学校から提出) ■令和4年6月～7月 通学路合同点検実施(必要に応じた安全対策の実施(公安委員会、道路管理者))	【道路課】 通学路対策については、引き続き実施していくとともに、計画に基づく地元のニーズをもとに、地元と優先度などを協議しながら、関係機関とも調整を図り、取り組んでまいります。 【建築政策課】 狭隘な道路に接する土地所有者からその土地を寄付していただける場合、関係機関との調整を図り、土地分筆や舗装等の道路拡幅整備に取り組んでまいります。 【学校教育課】 学校から提出された要望をもとに、道路管理者や公安委員会と通学路等安全対策プログラムに基づく合同点検を6月、7月に実施しました。 なお、要望は学校を通じて、前年度2月末をめどに提出されたものです。	【道路課】 ■関係機関との調整を図りながら地元のニーズをもとに整備を検討 【建築政策課】 ■狭隘な道路に接する土地所有者からその土地を寄付していただける場合、関係機関との調整を図りながら、土地分筆や舗装等の道路拡幅整備を実施 【学校教育課】 ■通学路点検の実施(6月、7月) ■必要に応じた安全対策の実施(公安委員会、道路管理者)	【道路課】 ■関係機関との調整を図りながら地元のニーズをもとに整備を検討 【建築政策課】 ■狭隘な道路に接する土地所有者からその土地を寄付していただける場合、関係機関との調整を図りながら、土地分筆や舗装等の道路拡幅整備を実施 【学校教育課】 ■通学路要望の集約(～4月初旬) ■通学路点検の実施(6月、7月) ■必要に応じた安全対策の実施(公安委員会、道路管理者)	道路課 建築政策課 学校教育課	
		河川・環境の利活用	葉山川沿いには自転車・歩行者道が整備されており、これを活用したウォーキングルートの検討(マップ作成等)や健康器具の配置を検討し、健康都市の推進を図る。また、葉山川、中ノ井川、伊佐々川沿いには、蟹が生息していることから、ほたるフェスタが開催されている。この利活用を検討し、加えて、第3次草津市環境基本計画における重点事業①「いきもの自然学校」のモデル地域および重点事業②「地域資源健康幸ラリー」に指定されていることから、これらと連携しながら、地域活性化へ繋げる。	○ (環境政策課) (健康福祉政策課)	○ 【大学等との検討・事業企画】	○ 【ルート等や利活用の検討・企画】	【環境政策課】 ■令和4年5月 笠縫東いきもの自然学校プログラム①「ほたるフェスタ」実施 ■令和4年9月 笠縫東いきもの自然学校プログラム②「葉山川いきもの調査」実施 ■令和4年10月 笠縫東いきもの自然学校プログラム③「草花観察会」実施 ■令和4年11月 地域資源健康幸ラリー実施	【環境政策課】 環境基本計画の重点事業①「いきもの自然学校」について、既存の地域の取組を活用し、自然と人のふれあいや自然観察等の体験を中心とした環境学習プログラムを検討し、予定していた計3回の取組を、地元と連携して実施することができました。 また、環境基本計画の重点事業②「地域資源健康幸ラリー」について、地元主体で実施いただきました。来年度は自然と人の関わりについて学び体感するプログラム内容を充実させていきます。	【環境政策課】 ■令和5年5月笠縫東いきもの自然学校プログラム①「草花観察会」実施 ■令和5年6月笠縫東いきもの自然学校プログラム②「ほたるフェスタ」実施 ■令和5年9月笠縫東いきもの自然学校プログラム③「葉山川いきもの調査」実施 ■地域資源健康幸ラリー実施 【健康福祉政策課】 ■ウォーキングモデル事業実施(立命館大学監修、笠縫東学区まちづくり協議会協力)	【環境政策課】 ■笠縫東いきもの自然学校プログラム ■地域資源健康幸ラリー	環境政策課 健康福祉政策課	

■まちづくりプランの進捗状況について（詳細）

学区	基本方針	施策	施策内容	施策の実施主体				これまでの取組（進捗状況）		今後取り組む事項（実施見込）		関連課
				市（担当課）	民間【役割】	地元【役割】	県	プラン策定から令和4年度までの進捗状況	進捗状況に対するコメント	令和5年度	令和6年度	
老上西	地域資源を活かした産業の支援	中間水路の利活用	琵琶湖敷きの一部である中間水路は、水質改善が長年の課題となっていることから、様々な関係機関と連携しながら、水質改善に向けた取り組みを推進し、大学等と利活用に向けた検討を進める。	○ （都市地域戦略課） （上下水道施設課）	○ 【大学等との検討、企画、運営】	○ 【地域ニーズの集約】	○	【都市地域戦略課】 ■令和3年11月 ワークショップⅠ ■令和4年3月 ワークショップⅡ ■令和4年6月 ワークショップⅢ ■令和4年10月 中間水路における実証実験(カヌー体験&ミニマルシェ)	【都市地域戦略課】 今後の中間水路の利活用の促進および水質改善に向けてワークショップでの検討を重ねて、将来ビジョン『みんながつながるウォータータウン』を策定しました。併せて、産学官民連携により、中間水路の利活用の促進および水質改善に向けた実証実験を開催しました。	【都市地域戦略課】 ■『みどりみずべの将来ビジョン(令和2年3月 滋賀県)』の活用を見据えた事業検討 ■将来ビジョン具現化に向けたワークショップへの参加 ■中間水路の水質改善に向けた県への要望 【上下水道施設課】 水流発生装置等の具体的な対策を早期に実施いただくよう要望。	【都市地域戦略課】 ■『みどりみずべの将来ビジョン(令和2年3月 滋賀県)』の活用を見据えた事業検討 ■将来ビジョン具現化に向けたワークショップへの参加 ■中間水路の水質改善に向けた県への要望 【上下水道施設課】 水流発生装置等の具体的な対策を早期に実施いただくよう要望。	都市地域戦略課 上下水道施設課
		矢橋掃帆島の利活用	矢橋掃帆島は草津市外からも多くの方が訪れ、賑わいを見せていることから、掃帆島公園や中間水路を含めた利活用について大学等と連携した取り組みを進め、老上西学区の地域活性化を推進する。		○ 【大学等との検討、企画、運営】	○ 【地域ニーズの集約】	○	【都市地域戦略課】 ■令和3年11月 ワークショップⅠ ■令和4年3月 ワークショップⅡ ■令和4年6月 ワークショップⅢ ■令和4年10月 中間水路における実証実験(カヌー体験&ミニマルシェ)	【都市地域戦略課】 今後の矢橋掃帆島の利活用に関してワークショップでの検討を重ねて、将来ビジョン『みんながつながるウォータータウン』を策定しました。	【都市地域戦略課】 ■『みどりみずべの将来ビジョン(令和2年3月 滋賀県)』の活用を見据えた事業検討 ■将来ビジョン具現化に向けたワークショップへの参加 ■中間水路の水質改善に向けた県への要望	【都市地域戦略課】 ■『みどりみずべの将来ビジョン(令和2年3月 滋賀県)』の活用を見据えた事業検討 ■将来ビジョン具現化に向けたワークショップへの参加 ■中間水路の水質改善に向けた県への要望	(都市地域戦略課)